

2月3日「緩和ケア」を考える学習会（振り返り）

「緩和ケア」とは、重い病を抱える患者やその家族一人一人の身体や心などの様々なつらさをやわらげ、より豊かな人生を送ることができるように支えていくケアのことです。

一言でいうと「病気に伴う心と体の痛みを和らげること」を意味します。



去る、2月3日午後より、「緩和ケア」を考える学習会（津名・東浦支部主催事業）を市役所2号館3階大会議室に於いて開催しました。

講師に岩崎順子さん（和歌山県海南市在住、いのちの講演家）を迎え、実体験の家族のお話を中心に、自身の苦勞や体験からの学びを話して頂きました。（参加者感想の思いが深かったので一部を紹介いたします。）

●心に染み入るお話に涙が出ました。私も岩崎先生と同様に母をガンをで亡くし、同じような思いを感じてきました。また、祖母、父も病気で亡くし介護もしてきました。その中で、私自身は「生かされている」「いのちがつかがっている」といふ思いを感じました。

「る」という思いも感じられ、生き方も変わりました。そして、その姿を見せてくれた3人共、私達残された家族に様々なメッセージを残してくれたと思っています。改めて、その頃の気持ちがよく返って、熱い思いが込み上げました。是非この方の話をもっともっと多くの方々に聞かせてもらいたいと思います。学校や地域等。

●私の父も小1の時ガンで亡くなりました。父との思い出が少ない中でも、小学校入学の時に祝いの筆箱を仮退院して持って来てくれた事だけは鮮明に残っています。今現在、母親が入院しています。介護は大変なのですが、今日話を聞いて、より母親と話したり、手をにぎってやらないと強く思いました。母親が「もう死にたい」と言った事があります。その時「何言うとんのよ。がんばらなあかんで。」と大きな声で叫んだのですが、今日の話を聞いて反省しました。

●泣ける話でした。自身ガン治療を始めて約1年になります。色々なことを考えながら前向きに向き合ってきましたが、今日の話を聞き、元気が出たように思います。ありがたうございました。妻は泣きっぱなしでしたが帰宅してから今日の内容を話し合いたいと思います。

●自分の体験を細かく話して下さい

て有難うございます。私の父もガンで亡くなりました。余命半年と言われてショックでした。誰にも言わないで自分で何でかといいなから看病して2年間生きてくれました。講師先生は主人が若かったのでどう接していけばと短いつきあいを子供と接したと思います。母も病気で長い間、病院生活だったので十二分に看病しなかつたので今も後悔しています。家族であるので後悔はしないと言われたのが少し心が楽になりました。

●貴重なお話を拝聴させていただきました。機会に巡りあえました。ありがとうございました。今日の御縁に感謝しております。ご主人圭介さんの御冥福を心よりお祈り申し上げます。お話の中にあつた余命宣告を受けた男性のことに自身の活動の原点を再確認できました。

緩和ケアとしての農福連携、終末医療の場づくりと啓発、最後まで人として生きる、やりがいをもてる尊厳、淡路市、淡路島、日本全国にこのような場所を作りたくて淡路島に移住して5年半、まだまだ歩みは遅くて叶ってはいませんがあきらめずに少しずつ進んでいく気持ちを新たにできた節分の日となりました。

※参加者の声に応え、今後
も学習会を作っていきます。

●市人教の動き●

- ◆1月11・12日 第32回人権啓発集会参加。
- ◆1月13日 岩屋支部人権映画『無念』上映会
- ◆1月17日 岩屋絵島学園『風の匂い』（啓発映画）上映。
- ◆1月18日 本庁学習部会「ひきこもり」を考える学習会。
- ◆1月19日 第4回文集編集委員会
- ◆1月23日 人権探究コーナー（市民講座）「部落差別」
- ◆1月24日 「ひきこもり」準備会開催
- ◆1月26日 天神老人クラブ映画映写「人権のヒント」
- ◆1月31日 北淡中学校人権教育公開授業参加
- ◆2月3日 津名・東浦支部主催事業「緩和ケア」を考える学習会
- ◆2月5日 市人教役員「加古川刑務所」視察研修
- ◆2月7日 一宮支部福祉講演会「見えないから見えなもの」竹内昌彦氏招聘
- 2月10日 岩屋支部役員研修「朝日新聞阪神支局襲撃事件」現地視察
- ◆2月14日 第5回会長・